

令和6年総会・理事会



Thermalism for All since 1986

令和6年6月14日(金)

理事会	1300~1400	(北とぴあ1602号室)
総会・記念講演会	1430~1700	(北とぴあ1601号室)
懇親会	1730~2000	(北とぴあ17階QUAD17)

特定非営利活動法人健康と温泉フォーラム

The Forum on Thermalism in Japan®

第1号議案 (資料1)

令和5年度事業報告並びに収支決算書 (自令和5年4月1日 至 令和6年3月31日)

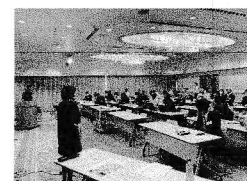
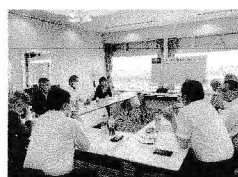
I. 会員数と構成

年度	法人会員	個人会員	合計
令和元年度	54	65	119
令和2年度	52	50	102
令和3年度	51	46	97
令和4年度	52	51	103
令和5年度	53	60	113

備考 法人2件退会、新加入 法人会員3件 個人会員9件

II. 主な会議

年次総会	1回	令和5年6月16日(金)	(ハイブリッド方式)
理事会	1回	令和5年6月16日(金)	
企画・運営委員会	7回	令和5年4月21日(金) 北とぴあ	令和5年5月25日(木) (ONLINE)
		令和5年8月24日(木) 北とぴあ	令和5年9月26日(火) 東京BIGサイト
		令和5年12月18日(月) 北とぴあ	令和5年1月29日(月) 北とぴあ
		令和5年2月26日(月) 北とぴあ	



III. 主な事業

1. 調査研究事業

1) 月例研究会 (北とぴあ・東京文化会館)

- ・利用会場のWiFi設備の充実に伴い、基本的にハイブリッド形式で、ONLINE必要機器購入・運用。
- ・地域活性学会、一般財団法人日本健康開発財団、特定非営利活動法人スパ&ウエルネス・ツーリズム振興協会(旧名 日本スパ振興協会)との共催体制は現状継続。
- ・テーマにより日本温泉気候物理医学会温泉療法医の研修プログラム(1単位)に申請。
- ・開催実施概要は下記の通り。

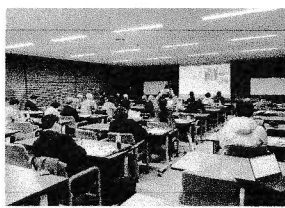
() ONLINE参加者

回	開催日	会場	テーマ/講師*敬称略	形式	参加者数
・107	令和5年4月21日(金)	「フリートークセッションの成果と今後の展開」	コーディネーター 坂本 誠 (NPO健康と温泉フォーラム専門委員)	ONLINE	24(24)
		「入湯税」	中沢 敬 (一社群馬県温泉協会会長)		
		「温泉医学」	猪熊茂子 (千葉中央メディカルセンター、国立国際医療研究センター国府台病院 温泉療法医)		
		「国民保養温泉地」	片山健也 (北海道ニセコ町長)		
		「SDG`s-温泉資源」	滝沢英夫 (公財中央温泉研究所研究部長)		
		「SDD`s-LGBT/国際化」	Ms.Lindsey Bridges(観光・ホスピタリティエキスパート)		
		「国際温泉交流センター構想」	合田純人 (NPO健康と温泉フォーラム常任理事)		

- ・108 令和5年5月12日(金) 北とぴあ「温泉の経済史—近代日本を中心に」 ハイブリッド 29(4)
高柳友彦 (一橋大学大学院経済研究所講師)
- ・109 令和5年7月25日(火)26日(水) 俵山温泉「俵山温泉活性化ワークショップ」 対面集会のみ 30 (0)
(フォーラム理事・専門委員有志と俵山温泉関係者)
- ・110 令和5年8月24日(木) 北とぴあ 「ペルー秘湯のエピ: アチチ君国際学会登録物語」 ハイブリッド26(6)
富川光 (広島大学教育学部教授)、川崎義巳 (NPO健康と温泉フォーラム理事)
- ・111 令和5年9月26日(火) 東京BIGサイト「日本の温泉資源の現状」 ハイブリッド 36(16)
滝沢英夫 (公財中央温泉研究所研究部長)
- ・112 令和5年12月18日 (月) 北とぴあ「コロナ後の温泉の総括と今後の展望」ハイブリッド 30(10)
合田純人 (NPO健康と温泉フォーラム常任理事)
- ・113 令和6年1月29日 (月) 北とぴあ「温泉旅行の近現在—江戸から現代」 ハイブリッド 31(11)
高柳友彦 (一橋大学大学院経済研究所講師)
- ・114 令和6年2月26日 (月) 北とぴあ「温泉法学の系譜と将来—シリーズ第2回」ハイブリッド 27(14)
布山裕一 (流通経済大学講師 NPO健康と温泉フォーラム理事)
- ・115 令和6年3月29日 (金) 東京文化会館「温泉地実践リーダーワークショップ2024」ハイブリッド 65(23)
「温泉地のコミュニティデザインと文化・建築遺産」向田薫 (歴史温泉建築家)
「温泉地と地域資源を活用した健康関連商品の企画研究」安光孝代(yasumirelax代表)
「癒やしと健康を提供する俵山版アルベルゴ・ディフーズ構想」藤永義彦 (SD-WORLD社代表)
「Not well known ,not springs」俵山温泉の可能性 齋木泰彦 (齋木病院院長 温泉療法医)
「みなかみ18湯における温泉地活性化の取り組み」深津卓也(上牧温泉辰巳館代表取締役)



第109回俵山温泉温泉閣 (長門市)



第115回東京文化会館 (上野公園)



付記 本年度は開催数9回 対面集会式 1回 ハイブリッド形式7回、ONLINEのみ1回。総参加者数は304人(内ONLINE108人)。温泉療法医会から研修単位(1単位)を延べ4回の研究会が認可され、温泉療法医の参加も増えた。健康と温泉をテーマに産官学の立体的な研究プラットフォームとして、関係諸機関から高い評価を得ているが、参加者からの積極的で、具体的な要望も増え、ある程度固定化した研究会の様式とは別に、より多くの参加者が出席しやすいよう、テーマの選定や、開催時間、開催場所を工夫し、開催形式も色々組み合わせ、研究交流のさらなる活性化にチャレンジした成果が少しずつでてきている。

★ 参照HP (ホームページwww.onsen-forum.jp「月例研究会報告」)

2) 「温泉と社会制度—温泉医学研究体制」(自主研究) (平成26年より継続研究) 温泉関連政策・組織の調査・研究

COVID-19後のより、健康志向に向かう社会における温泉の系譜的関連組織(中央官庁、地方自治体、学会、組合、有識者など)と様々な意見交換を行ってきた。入湯税の戦略的活用や、温泉医学研究振興の総合的な実施組織形態とその連携のあり方、温泉振興の長期的ヴィジョンとその政策提言、温泉のグローバルゼーションへの対応や温泉関連人材の育成等のあり方を研究した。

(1) 「日本の温泉の現状と政策及びフォーラム活動に関するヒヤリング・意見交換」(抜粋) (敬称略)

令和5年4月19日 菊池市商工会長 笠愛一郎氏 (都内)
令和5年4月24日 温泉文化ユネスコ無形文化遺産登録振興協会 中沢 敬氏 (都内)
高崎商科大学商学部特任教授 熊倉浩靖氏 (都内)

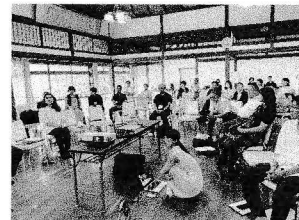
一社日本温泉協会常務副会長 岡村興太郎氏（都内）
 乳頭温泉鶴の湯会長 佐藤和志氏（都内）
 熱海市役所観光建築部次長 立見修司氏（都内）
 令和5年5月10日 静岡県経済産業部新産業集積課主任 工藤兼一郎氏（都内）
 令和5年5月11日 山梨県ウエルネスツーリズム推進協議会会長 小山芳久氏（都内）
 令和5年5月17日 北海道豊富町長 河田誠一氏（北海道豊富町）
 令和5年5月18日 北海道豊富町前町長 工藤栄光氏（北海道豊富町）
 令和5年6月1日 菊池市商工会長 笠愛一郎氏（都内）
 令和5年6月4日 一社群馬県温泉協会会長 中沢敬氏（都内）
 令和5年6月8日 菊池市観光商工課課長補佐 上野重智氏（都内）
 令和5年6月27日 群馬大学教育学部教授 関戸明子氏（都内）
 令和5年6月27日 参議院議員 横山信一氏（都内）
 令和5年7月10日 静岡県経済産業部新産業集積課参事 長尾吉秀氏 工藤兼一郎（都内）
 令和5年7月11日 兵庫県新温泉町商工観光課長 福井崇裕氏（WEB）
 令和5年7月13日 福島県金山町議会議員 坂内譲氏（福島県金山町玉梨温泉）
 奥会津かねやま福業協同組合事務局次長 渡部久美氏（福島県金山町）
 令和5年7月14日 新潟県阿賀野市長 田中清善氏（新潟県阿賀野市）
 新潟県村杉温泉長生館社長 荒木善紀氏（新潟県阿賀野市）
 令和5年7月25日 山口県長門市市長 江原達也氏（山口県長門市）
 令和5年7月26日 熊本県菊池市長 江頭実氏（熊本県菊池市）
 熊本県菊池商工会長 笠愛一郎氏（熊本県菊池市）
 令和5年7月31日 鳥取県倉吉市長 広田一恭氏（鳥取県倉吉市）
 鳥取県三朝町長 松浦弘幸氏（鳥取県三朝町）
 兵庫県新温泉町 西村銀三氏（兵庫県新温泉町）
 兵庫県新温泉町商工会長 谷田一富氏（兵庫県新温泉町）
 湯村温泉旅館協同組合長 朝野泰昌氏（兵庫県新温泉町湯村温泉）
 多摩美術大学美術学部特任准教授 丸橋浩史氏（兵庫県新温泉町湯村温泉）
 令和5年8月1日 石川県加賀市山中温泉観光協会顧問 上口昌徳氏（石川県山中温泉）
 令和5年8月28日 ホテルニューツルタ社長 鶴田浩一郎氏（大分県別府市）
 立命館アジア太平洋大学サステナビリティ観光学部教授（大分県別府市）
 令和5年8月29日 大分県別府市長 長野恭紘氏（大分県別府市）
 令和5年9月1日 環境省参与 奥田直久氏（都内）
 環境省自然環境局長 白石隆夫氏（都内）
 令和5年9月12日 ハンガリー大使館一等書記官・文化担当官 コバーチエメシエ氏（都内）
 令和5年9月21日 熊本県菊池市観光商工課課長補佐 上野重智氏 主査 森永美香氏（都内）
 令和5年9月28日 静岡県経済産業部新産業集積課参事 長尾吉秀氏 工藤兼一郎（静岡県沼津市）
 静岡県教育委員会教育部長 水口秀樹氏（静岡県三島市）
 令和5年10月2日 大分県竹田市健康と温泉文化フォーラム代表理事 首藤勝次氏（竹田市長湯温泉）
 令和5年10月4日 大分県別府市市長公室参事 松川幸路氏（竹田市長湯温泉）
 令和5年10月20日 静岡県経済産業部新産業集積課参事 長尾吉秀氏 工藤兼一郎（都内）
 令和5年10月23日 イタリアアバノ市元副市長 マッシモ・サビオン氏（都内）
 令和5年10月24日 北海道豊富町長 河田誠一氏（北海道豊富町）
 令和5年11月1日 静岡県知事 川勝平太氏（静岡県沼津市）
 令和5年11月2日 山口県俵山温泉泉屋旅館代表 吉村彦士氏（山口県長門市俵山温泉）
 令和5年11月7日 石川県山中温泉観光協会顧問 上口昌徳氏（石川県加賀市山中温泉）
 令和5年11月21日 ホテルニューツルタ社長 鶴田浩一郎氏（大分県別府市）
 立命館アジア太平洋大学サステナビリティ観光学部教授（大分県別府市）
 大分県別府市長 長野恭紘氏（大分県別府市）
 令和5年11月22日 熊本県菊池市長 江頭実氏（熊本県菊池市）
 令和5年12月12日 秋田県玉川温泉代表取締役社長 畠山米一氏（都内）
 令和6年1月19日 一社群馬県温泉協会会長 中沢敬氏（都内）
 令和6年1月24日 山口県長門市経済観光部長 堀俊洋氏（山口県長門市俵山温泉）
 令和6年1月26日

令和6年1月28日	SD-WORLD株式会社社長 藤永義彦氏 (山口県長門市俵山温泉)
令和6年2月1日	山梨県ウエルネスツーリズム振興協議会代表 小山芳久氏 (都内)
	熊本県菊池市長 江頭実氏 (熊本県菊池市)
令和6年2月6日	株式会社白金の森代表取締役 松岡義博氏 (熊本県菊池市菊池温泉)
	ホテルニューツルタ社長 鶴田浩一郎氏 (大分県別府市)
	立命館アジア太平洋大学サステナビリティ観光学部教授 (大分県別府市)
令和6年2月7日	大分県別府市長 長野恭紘氏 (大分県別府市)
令和6年2月13日	群馬県草津温泉ホテルヴィレッジ会長 中沢敬 (群馬県草津町)
令和6年2月20日	ハンガリー大使館一等書記官・文化担当官 コバーチ・エメシェ (都内)
令和6年2月21日	静岡県経済産業部新産業集積課参事 長尾吉秀氏 工藤兼一郎 (都内)
令和6年2月28日	一社群馬県温泉協会会長 中沢敬氏 (都内)
令和6年3月7日	熊本県菊池商工会長 笠愛一郎氏 (都内)
令和6年3月22日	NPOガイアイニシアティブ代表 野中ともよ氏 (都内)
令和6年3月28日	山梨県ウエルネスツーリズム振興協議会代表 小山芳久氏 (都内)

(2) 「温泉地活性化の研究・開発」

第109回月例研究会と連携し、令和5年7月25日(火)26日(水) 俵山温泉にて「俵山温泉活性化ワークショップ」を開催。地元関係者を交え、「分散型滞在構想ー日本型アルベルゴ・ディフーゾの可能性」を研究討論した。伝統的な湯治場が衰退の一途をたどる今日、温泉旅行形態の変化、いつかのワーケーションブームの新たな展開として、「暮らすように旅する」滞在型の新たなマーケットが注目されてきた。湯治型温泉地はバブル経済をなんとか生き延びたが、施設の老朽化や後継者問題で瀕死の状態に陥っている。俵山温泉は古くより、湯治場として栄え、現在も日本の温泉文化の一つ外湯文化が生き残っている数少ない温泉地であるが、同様の深刻な事業継承問題に直面している。昨年の環境省の新・湯治の効果に関する協同モデル調査事業「俵山湯治ヴィレッジ」の監修及びアドバイザーとして参加したフォーラムへ共同研究の提案があり、現地で地元とワークショップという形で研究討論することになり、地元につづき、フォーラムからは下記のプレゼンテーションを行った。

- ・「アルベルゴ・ディフーゾの取り組み」 首藤勝次(前竹田市長、F(フォーラム)理事)
- ・「温泉地の事業継承」 笠愛一郎(菊池市商工会長) (F理事)
- ・「新・湯治ウエルネスツーリズム」 関口陽一(経済産業研究所上席研究員) (F専門委員)
- ・「温泉文化の保護」 中沢敬(群馬県温泉協会会長、元草津町長) (F理事)
- ・「湯治場の魅力」 石井宏子(温泉ビューティ研究所代表) (F専門委員)
- ・「湯治場の空間とその魅力」 浜田幸康(PDSアーキテクトー級建築士事務所) (F専門委員)
- ・「湯治旅館の魅力」 倉沢章(信州別所温泉上松や会長) (F理事)
- ・「赤沢温泉旅館とインバウンド」 遠藤正俊(株式会社赤沢温泉代表、森林学博士)

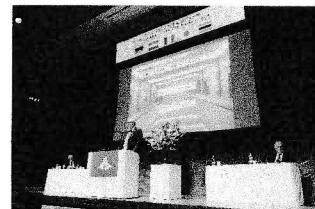


2. 研修事業

健康・福祉・介護などへ温泉の社会的活用を積極的に支援するため、講師派遣、人材育成など大学、自治体、関係団体からの要請に可能な限り対応した。

1) 「第31回温泉利用指導者研修会」 (講師派遣)

主催 一般財団法人日本健康開発財団
 会場 ヴジョンセンター東京駅前内会議室(東京都中央区八重洲1-8-17 新榎田ビル7F)
 派遣日 令和5年10月6日(金) 講座 「健康社会学」
 10月13日(金) 「温泉保養システム」
 受講者 温泉利用指導者研修生12名



2) 「静岡県伊豆ヘルスケア温泉イノベーションプロジェクト」 (ICOI)

(企画・講師ファシリテーション・全体コーディネーション業務)

静岡県の伊豆半島の温泉産業振興のための新産業創出企画事業にア

ドバイザーとして2021年より参画。本年度は静岡県の「東アジア文化都市2023静岡県」事業の一環で企画主催した「ふじのくに食と温泉文化フォーラム」* (詳細はフォーラム事業) の企画・ファシリテーション及びコーディネーション業務を実施した。

又、標記事業構想の一つである「伊豆地方で国際的な温泉研究の拠点づくり」はフォーラムの長年の念願である国際温泉研究交流拠点計画への関連性が期待されることから、今後も積極的にフォーラムと本プロジェクトとで、協働が可能な事業プロジェクトの企画を支援する。

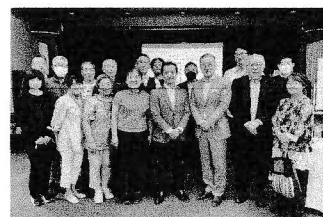
3) 「短期集中講義—ふじのくに学（伊豆の温泉と産業おこし）」（講師派遣）

主催 公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム
会場 静岡県立大学キャンパス（静岡県静岡市駿河区谷田52-1）
派遣日 令和5年11月11日（土） 講座 「日本と世界の温泉の歴史」



4) 「新・湯治・ウェルネスツーリズム専門家会合」（委員派遣）

主催 大分県別府市
会場 大分県別府市役所レセプションホール、別府市水道局大会議室
派遣日 令和5年8月29日（火） 9:30~11:00
令和5年11月22日（水） 14:00~15:30
令和6年2月7日（水） 14:00~15:30



5) 「熊本県菊池温泉街魅力創出ワークショップ」（観光関連事業者対象）

（委員派遣、講師ファシリテーション・全体コーディネーション）

主催 熊本県菊池市
会場 熊本県菊池市菊池グランドホテル会議室
派遣日 令和5年7月27日（木） 13:00~14:30 講師 合田純人（常任理事）
令和5年10月3日（火） 13:00~15:00 講師 中沢敬（草津温泉観光協会参与）
令和5年12月13日（水） 14:00~15:00 講師 石井宏子（温泉ビューティ研究所代表）
令和6年2月1日（木） 14:00~15:00 講師 合田純人（常任理事）

6) 「新温泉町リフレッシュ館町民プールあり方検討委員会」（アドバイザー派遣）

主催 兵庫県新温泉町
会場 町民センター（兵庫県新温泉町湯990-8）
派遣日 令和5年7月31日（月） 15:00~16:30 アドバイザー 合田純人（常任理事）
令和5年11月3日（火） 13:00~15:00 アドバイザー Mr.Markus Matz
（ドイツバードクロチンゲン温泉ヴィータクラシカ副館長）

7) 「山口県俵山温泉エリアプラットフォーム全体会議」（専門人材(アドバイザー)派遣）

主催 山口県長門市
会場 俵山温泉温泉閣（山口県長門市俵山温泉）
派遣日 令和6年1月26日（金） 16:00~17:30 アドバイザー 合田純人（常任理事）
令和6年3月1日（金） 13:00~15:00 アドバイザー 合田純人（常任理事） (ONLINE)

3. フォーラム事業/日本の名湯百選[®]事業

1) 「健康と温泉フォーラムin豊富2023」及び「温泉を活用した健康づくり広域連携会議2023」

本事業の全国の温泉地自治体の広域連携や、地元温泉地と中央組織（官庁、関連学会、関連組織）及び地元市民との情報共有などを目的に全国の温泉地で開催する健康と温泉フォーラム本体の主軸の全国マルチプラットフォーム事業です。2019年の鳥取県三朝町での開催を最後に新型コロナウイルス感染拡大問題（COVID-19）の影響で開催を中止していましたが、4年ぶりに昨年11月北海道豊富温泉で豊富町と共催し開催いたしました。

- ・ 催事名 「健康と温泉フォーラムin豊富町2023」及び「温泉を活用した健康づくり広域連携会議2023」
- ・ テーマ 「温泉の未来—伝統と科学の融合」
- ・ 主催 健康と温泉フォーラム/ 北海道豊富町
- ・ 後援 厚生労働省、環境省、全国市長会、全国町村会、北海道宗谷総合振興局、他関連団体
地元メディア他
- ・ 会期 令和5年11月17日（金）、18日（土）
- ・ 会場 北海道豊富町定住促進センター（11月17日・18日）
ホテル豊富（11月17日 レセプション）
- ・ 参加者 100名（延べ2日間）

・プログラム

11月17日(金)	於 北海道豊富町定住促進センター
1500	開会式
1520	第一部「温泉を活用した健康づくり広域連携会議2023」
	事例発表-1「豊富町の取り組み」行政、医師、湯治生活指導
	事例発表-2「参加自治体、団体の発表」参加自治体/関連団体(13)
	宣言文採択(**7頁に全文収録)
1710	第二部 基調講演「AI(人工知能)と温泉」
	桜田一洋(慶應義塾大学医学部教授)
1900	交流レセプション(於:豊富ホテル)
11月18日(土)	於 豊富町定住促進センター
830	第三部 パネルセッション
	「健康と温泉—伝統文化と近代科学」
コーディネーター	合田純人(常任理事)
パネラー	桜田一洋(慶應義塾大学医学部教授)
	谷口江里也(詩人、ヴィジョンアーキテクト)
	野中ともよ(NPO法人ガイア・イニシアティブ代表)
1000	第四部 特別講演「テルマエの国からみた日本の温泉の魅力」
	マッシモ・サビオン(元イタリアアバノ市副市長)
1100	温泉地協賛品抽選会
1115	閉会式



2) 「ふじのくに食と温泉文化フォーラム」

本事業は「静岡県伊豆ヘルスケア温泉イノベーションプロジェクト」(ICOI)の一環で研修事業で記載の通り、標記のフォーラムの内、「温泉シンポジウムセッション」の企画からファシリテーション・コーディネーション全体を支援・実施した。

- ・催事名 「ふじのくに食と温泉文化フォーラム」
- ・テーマ 「ふじのくにの食と温泉文化」
- ・主催 静岡県
- ・後援 環境省、文化庁、時事通信社
- ・会期 令和5年11月1日(水)
- ・会場 プラサヴェルデ(静岡県沼津市大手町1丁目1-4)
- ・参加者 500名(ONLINEでライブ配信)
- ・プログラム (温泉シンポジウム)

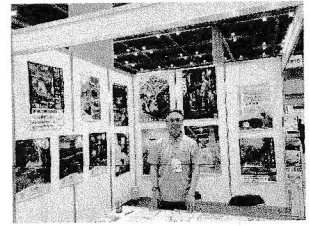


11月1日(水)	1330 「温泉と心の健康づくり—世界から注目されるポストウエルネスとしての日本の温泉—」
	ファシリテーター 合田純人(常任理事)
	開会スピーチ 「ハンガリーの温泉の魅力」
	コバチ・エメシェ(ハンガリー大使館一等書記官・文化担当官)
	講演-1(ONLINE)「ヨーロッパ温泉医学の現状とポストウエルネスに向けた医学的取り組み」ヨハネス・ナウマン教授(ドイツ・フライブルグ大学医学部)
	講演-2 「ヨーロッパの温泉地経営の実際とグローバルマーケットにおける日本の温泉地の可能性」マックス・マッツ氏
	(ドイツ・バードクロチンゲンヴィタクラシカ 副所長)
	講演-3 「ヨーロッパの温泉専門家からみた日本の温泉の魅力」
	マッシモ・サビオン
	(イタリア・アバノ・モンテグロット温泉ホテル協会元会長、元アバノ市副市長)
	質疑応答
1530	閉会

4. 広報事業

1) SPA & WELLNESS JAPAN 2023 (後援・展示ブース(3mx2m)設営)

- ・開催日 令和5年9月25日(月)26日(火)27日(水)
- ・会場 東京BIGサイト西ホール
- ・来場者 1,5万人(予定)
- ・展示協力 インフォーマーケッツジャパン株式会社
山梨県ウエルネスツーリズム振興協会、たわらやまの旅と未来会議
三朝町、菊池市商工会、新玉川温泉、草津温泉協会



フォーラムと主催者との共催で、催事初日(9月25日)にセミナーを開催。

「日本のビューティ&ヘルス世界標準へー日本温泉文化のユネスコ無形文化遺産登録へ」

講師 中沢 敬(一社群馬県温泉協会会長、元草津町長、フォーラム理事)

5. 国際事業 ONLINEを活用して、ヨーロッパ温泉関係者と適時情報交換をしてきたが、欧州各国の取り組みにも違いがあるが、総じて、ポストコロナ社会とポストウエルネスとして、よりメンタルな心の健康づくりへの温泉活用が注目される中、古くよりの日本の自然と一体となった心の回生としての温泉文化がその先進モデルとして注視され始めてきた。その実際とその国際協調への道筋づくりを研究するため、2023年11月2日より、国際会議で招聘したイタリアの温泉経営専門家のマッシモ氏と、俵山温泉(山口県)、湯原温泉(岡山県)、山中温泉(石川県)と1週間にわたり温泉地を視察した。地元関係者との懇談で得たこれらの知見をベースに、温泉の国際協調への道筋づくりをさらに研究することになった。

6. 情報交流事業

ホームページによる基礎活動(温泉療法医による温泉療養相談、日本の名湯百選や世界の温泉地情報の提供等)の継続とともに、より積極的で多様な情報発信力(SNSやフェースブックなど)への対応等を検討し、フォーラムの情報発信力のあり方を検討した。

- ・HP及びSNSの掲載内容の充実(一般と専門コンテンツの棲み分け)
- ・NPO法人として一般市民への情報公開の取り組み(主にHPで公開予定)
- ・「温泉療養相談コーナー」「日本の名湯百選情報の提供」の継続運用

健康と温泉フォーラムin豊富町2023/温泉を活用した健康づくり広域連携会議豊富宣言



温泉を活用した健康づくり広域連携会議豊富宣言

本日、私たち、全国屈指の温泉地代表は、日本最北の温泉郷、豊富温泉に集結し、「温泉を活用した健康づくり広域連携」をテーマに産官学の多様な視点で議論し、温泉の健康・福祉などへの社会的活用の可能性と其の課題を共有いたしました。超高齢社会の中、健康寿命の延伸、医療費削減など社会保障政策の基盤要請によって、温泉地活性化は急務であり、全国の温泉は自然の恵みとして、また風土風習の重要な社会文化資産としても、益々評価されなければならないと確認いたしました。

人々の身体や心を癒やしてきた日本の伝統的な湯治文化が今世界から大きな注目を浴びている中、同じ志を持つ全国の温泉地が域内の枠を超え、国や自治体そして関連する学会や団体と連携して、自然と調和した豊かで活力ある温泉地づくりを、市民と一緒に推進することを新たな決意として、ここに宣言します。

令和5年11月17日 北海道豊富町にて

温泉を活用した健康づくり広域連携会議

議長 健康と温泉フォーラム会長 三友紀男
参加者一同

貸借対照表

令和 6 年 3 月 31 日現在 (決算)

法人名：特定非営利活動法人健康と温泉フォーラム
事業名：事業全体

(単位： 円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資 産 の 部			
流 動 資 産			
現 金 預 金	344,740	140,530	204,210
現 金	173,862	139,380	34,482
普 通 預 金	170,878	1,150	169,728
未 収 金	50,000		50,000
流 動 資 産 合 計	394,740	140,530	254,210
資 産 合 計	394,740	140,530	254,210
II 負 債 の 部			
流 動 負 債			
未 払 借 入 金	371,870	322,260	49,610
短 期 借 入 金	3,000,000	3,000,000	
流 動 負 債 合 計	3,371,870	3,322,260	49,610
負 債 合 計	3,371,870	3,322,260	49,610
III 正 味 財 産 の 部			
一 般 正 味 財 産	▲2,977,130	▲3,181,730	204,600
正 味 財 産 合 計	▲2,977,130	▲3,181,730	204,600
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	394,740	140,530	254,210

財 産 目 録

令和 6 年 3 月 31 日現在 (決算)

法人名：特定非営利活動法人健康と温泉フォーラム
事業名：事業全体

(単位： 円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流 動 資 産)			
現 金 預 金			173,862
普 通 預 金	三井住友信託銀行 支店	NO.6638108	170,878
未 収 金			50,000
流 動 資 産 合 計			394,740
資 産 合 計			394,740
(流 動 負 債)			
未 払 金	佐川急便 (3月分)		3,240
	人件費(3月分)		106,000
	家賃(3月分)		80,000
	光熱費(3月分)		19,970
	通信費(3月分)		36,500
	IP運用費		120,000
	書籍保管倉庫		6,160
短 期 借 入 金			3,000,000
流 動 負 債 合 計			3,371,870
負 債 合 計			3,371,870
正 味 財 産			▲2,977,130

正味財産増減計算書

令和 5年 4月 1日から令和 6年 3月31日 (決算) まで

法人名：特定非営利活動法人健康と温泉フォーラム

事業名：事業全体

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
經常増減の部			
經常収益			
受取会費	2,840,000	2,700,000	140,000
正会員受取会費	2,840,000	2,700,000	140,000
事業収益	4,890,278	645,000	4,245,278
研究事業収入	1,258,095	70,000	1,188,095
調査研究収入	881,000	435,000	446,000
フォーラム事業収入	2,751,183		2,751,183
情報交流事業		140,000	▲140,000
經常収益計	7,730,278	3,345,000	4,385,278
經常費用			
事業費	4,157,598	595,287	3,562,311
研修事業費	587,615		587,615
調査研究事業費	1,345,500	555,287	790,213
フォーラム事業費	1,858,683		1,858,683
国際交流事業費	245,800		245,800
情報交流事業費	120,000	40,000	80,000
管理費	3,368,080	3,076,980	291,100
給料手当	1,260,000	1,260,000	
会議費	94,320	63,600	30,720
旅費	342,000	286,000	56,000
通信費	264,000	193,200	70,800
消耗什器備品費	164,800	134,800	30,000
光熱水料	169,040	156,380	12,660
賃借料	960,000	960,000	
雑費	113,920	23,000	90,920
經常費用計	7,525,678	3,672,267	3,853,411
評価損益等調整前当期經常増減額	204,600	▲327,267	531,867
評価損益等計	0	0	0
当期經常増減額	204,600	▲327,267	531,867
經常外増減の部			
經常外収益計	0	0	0
經常外費用計	0	0	0
当期經常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	204,600	▲327,267	531,867
一般正味財産期首残高	▲3,181,730	▲2,854,463	▲327,267
一般正味財産期末残高	▲2,977,130	▲3,181,730	204,600
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	▲2,977,130	▲3,181,730	204,600

収 支 計 算 書

令和 5年 4月 1日から令和 6年 3月31日 (決算) まで

法人名：特定非営利活動法人健康と温泉フォーラム

事業名：事業全体

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
I 事業活動収支の部				
事業活動収入				
会費収入	2,700,000	2,840,000	▲140,000	
正会員会費収入	2,700,000	2,840,000	▲140,000	
事業収入	2,900,000	4,890,278	▲1,990,278	
研修事業収入	260,000	1,258,095	▲998,095	
調査研究収入	500,000	881,000	▲381,000	
フォーラム事業収入	2,000,000	2,751,183	▲751,183	
情報交流事業	140,000		140,000	
事業活動収入計	5,600,000	7,730,278	▲2,130,278	
事業活動支出				
事業費支出	2,350,000	4,157,598	▲1,807,598	
研修事業	100,000	587,615	▲487,615	
調査研究事業	650,000	1,345,500	▲695,500	
フォーラム事業	1,500,000	1,858,683	▲358,683	
国際交流事業		245,800	▲245,800	
情報交流事業	100,000	120,000	▲20,000	
管理費支出	3,530,000	3,368,080	161,920	
給料手当支出	1,260,000	1,260,000	0	
会議費支出	170,000	94,320	75,680	
旅費交通費支出	360,000	342,000	18,000	
通信運搬費支出	280,000	264,000	16,000	
消耗什器備品費支出	230,000	164,800	65,200	
光熱水料費支出	190,000	169,040	20,960	
賃借料支出	960,000	960,000	0	
雑支出	80,000	113,920	▲33,920	
事業活動支出計	5,880,000	7,525,678	▲1,645,678	
事業活動収支差額	▲280,000	204,600	▲484,600	
II 投資活動収支の部				
投資活動収支差額	0	0	0	
III 財務活動収支の部				
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出				
当期収支差額	▲280,000	204,600	▲484,600	
前期繰越収支差額	▲181,730	▲181,730	0	
次期繰越収支差額	▲461,730	22,870	▲484,600	

収支計算書に対する注記

法人名：特定非営利活動法人健康と温泉フォーラム
事業名：事業全体

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収会費、未収金、前払金、未払金、前受会費、前受金及び預り金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金	139,380	173,862
普通預金	1,150	170,878
未収金	0	50,000
未払金	▲322,260	▲371,870
	0	0
次期繰越収支差額	▲181,730	22,870

監査報告書

令和5年度事業報告書、財産目録、貸借対照表及び収支計算書各事項について監査したところ、その内容は適正かつ正確なものと認めます。

令和6年6月4日

特定非営利活動法人健康と温泉フォーラム

監事 坂本 展章



監事 小林 裕明



2号議案（資料2）

令和6年事業計画並びに収支予算書（案）

（自令和6年4月1日 至 令和7年3月31日）

■「企画・運営委員会」

フォーラムに寄せられる多様な社会的期待や要請に対応し、健康と温泉に関する諸活動を充足させるため、常任理事会が選出した理事並びに関係委員によって「企画・運営委員会」（委員長：合田常任理事）を設け、ひろく外部の意見や社会的要請の調整、公正な事業評価などに対応してきた。昨年度からさらに開催頻度を上げ、迅速な企画運営に努め、本年度も公明正大な組織規範の継続性を担保してONLINEも活用し、課題の内容によっては、理事会とも連動し、適時開催する予定。（定款 第8章運営組織の委員会及び部会等）

■ 事業計画

1. 調査研究事業

1) 月例研究会（主会場：北とびあ、東京文化会館他）

月例研究会は共催者である 地域活性学会、一般財団法人日本健康開発財団、NPO法人日本スパ&ウエルネスツーリズム協会、そして日本温泉気候物理医学会温泉療法医学会の多大なご支援とご協力によって、本年4月に115回を迎えることができました。今後も場合によってはWEB配信のみや対面集会方式とONLINEの混合型のハイブリッド形式で、適時企画し、より多くの参加者を獲得し、一つの事業として、その運用を活性化する予定。超高齢化社会、健康寿命の延伸、医療費の抑制、介護や医療、様々な課題を抱え、大きな過渡期を迎えようとしている日本の成熟社会。このようなパラダイム化した社会環境の変化に、そしてポストコロナ時代の新たな温泉への期待に応じる為に、産官学そしてより学際的な広い視野で研究会を開催していく必要がある。そのためには、関連業界、学会、所轄官庁の枠を超えて、温泉を取り巻く社会的課題解決のための情報共有や叡智を交換できうるような研究プラットフォームを目指し、従来通り下記のポイントで開催する。

- ①WIFI環境が整備された北とびあを主会場に、場合によっては、地方での開催なども検討し、多様化する研究セグメントの開発に取り組む。
- ②重要テーマは多様な視点で論議すると同時に、年間シリーズ化を目指し、その内容を深掘りし、一定の研究提言を公開できるように企画する。
- ③定期的な情報交換の場として、タイムリーな話題提供を図る。
- ④新旧の人材交流を図り、若手人材の育成を図る。
- ⑤研究内容をできるだけ、文字化、可視化を図り、フォーラムのホームページに掲載すると同時に、外部の広報媒体へも情報提供するようにシステム化を検討する。

回	開催日	会場	テーマ/講師	形式	参加者数(ONLINE)
・116	令和6年5月17日(金)	ハンガリー大使館	「ハンガリーと日本の温泉交流」	ハイブリッド形式	65(20)
			「ハンガリーの温泉とその文化」コバーチ・エメシェ（ハンガリー大使館一等書記官）		
			「ハンガリーの温泉医療の現状」コヴァーチ・チャバ（ハンガリー温泉医学会会長）		
・117	令和6年7月29日（月）	北とびあ	「温泉地のブランディングの最新研究」	ハイブリッド形式	
			丸橋浩史（多摩美術大学美術学部総合デザイン科特任准教授）		

2) ONSEN(温泉)ウエルネスの研究開発

温泉保養地医学は温泉の健康増進・疾病予防などの身体的効果効果だけでなく、自然環境や様々な保養地プログラムを組合せ、その心理的、精神的な回復も主な療養効果として評価されてきた。昨今、高齢者の認知症が社会問題化していますが、高齢者のみならず、実は都会の生活者の心神喪失や適応障害なども隠された大きな社会的な問題です。世界保健機構（WHO）も身体的生活習慣病とは別に、情報社会の精神疾患

を認知症とは区別し、温泉や自然のセラピーを再評価しそのプログラム開発を今後の重要な研究課題と予測している。都会環境の硬い人工空間と隙間のない慣習化した生活によっていわば、“心の金属疲労”で知覚回路が退化することがある。人が本来持っている心と身体の自律神経系のバランスのシステム障害とでも言うのでしょうか、その初期の原因としてレセプターとして触覚機能の劣化（嗅覚、味覚、視覚、聴覚、時間間隔）が起り、その劣化レセプターが感覚麻痺（風、日光、気圧、湿度等）さらに、重篤になると知覚・認知障害（情報過多症）など社会と摩擦を起こす、精神障害症候群となって行く恐れがあります。この習慣的な障害は対処療法として薬物治療では回復はできない。蓄積されたストレスや其の障害原因を、都会の日常生活を離れ、生命あふれる自然豊かな温泉地で様々な方法で自ら放電し、本来の自分の心身の調子とリズムを回復し、蘇生するプロジェクト。我が国の湯治文化は自然豊かな環境に心身ともに浸かり、疲れた体の回復と同時に、精神やストレスの発散を行う場の感性（ハレ）を日常生活（ケ）と区別して、機能化した習慣です。その優れた伝統を持つ全国の温泉地とその周辺の自然環境をモデルケースに、五感を鍛えるをテーマにONSENウエルネス研究開発を企画し、これからの温泉地の新たな役割を多様な実務専門家によって検証する予定です。

3) 「温泉と社会保障制度－温泉医学研究体制」(自主研究) (平成26年より継続研究)

温泉関連政策・組織の調査・研究(温泉パラダイムチャート*参照15頁)

新たな温泉時代の改革にむけて、近代における温泉(関連政策、組織、時代動向など)の系譜的関連組織(中央官庁、地方自治体、学会、組合、有識者など)と下記の課題の意見交換を行ってきた。入湯税の戦略的活用や、温泉医学研究振興の総合的な実施組織形態とその連携のあり方、温泉振興の長期的ヴィジョンとその政策提言、温泉のグローバリゼーションへの対応や温泉関連人材の育成等の研究開発を行う。

- ・「戦後の温泉行政の変遷研究(仮題)」(企画中)
- ・「日本の温泉の長期ビジョンと戦略及び政策に関する意見交換会」(企画及び日程など詳細調整中)
- ・「欧州温泉国に学ぶ温泉医学研究体制及び財源の研究－入湯税の戦略的活用に向け」(企画中)

4) 「温泉利用型健康増進施設の普及啓蒙と利用促進」の研究(自主研究)

平成28年4月1日より認可され、所謂「温浴系」と「運動系」とが個別に施設連携できるようになった「連携型」の温泉利用型健康増進施設は平成29年4月、7月、北海道の豊富町と大分県竹田市の2箇所に加え、平成31年4月には、岡山県玉野市の「瀬戸内温泉たまの湯」が連携型施設として、それぞれ認可された。厚労大臣への認定運動など、支援をお願いした全国の自治体の取組みに関する事例報告や具体的な運営体制の今後の課題など、主管する日本健康開発財団と協調し、具体的な候補を持つ自治体との協働研究体制を整備していく。同時に従来の医療費控除に関わる手続きの簡素化など運用システムの見直しを図り、この制度を関係機関や医学会・協会の協力を得て広く国民にPRする体制づくりを検証する。

5) 「環境省プロジェクトへの支援・交流研究」

2016年12月に設立された「温泉地保護利用推進室」は、全国自治体首長サミット会議やチーム新・湯治全国大会、新・湯治セミナーなどを主導し、新・湯治プロジェクトに関するネットワークづくりの事業などを実施している。この環境省「温泉地保護利用推進室」の関連事業へのフォーラムへの要請等を踏まえ、日本の温泉地の健康づくりへの健全な発展ために可能な限りその普及活動支援を行う。

6) 「令和6年度新・湯治の効果に関する協同モデル調査」

熊本県菊池市(観光商工課)は管内の菊池温泉の活性化事業として令和6年度の環境省の標記調査に応募、研究調査テーマ「地域との交流を主軸とした新・湯治プログラム体験による健康増進調査」が採択された。その全体の企画研究調整へのアドバイスを依頼され、全体のアドバイザーとして合田純人(フォーラム常任理事)と調査研究の検証評価・監修を牧野直樹氏(九州大学名誉教授)、具体的な調査・指導を武居和江(オフィスケイズケア代表、温泉ウエルネスプランナー、フォーラム専門委員)の支援体制で菊池市及び地元関係者と協働・実施する予定。

7) 「温先人ONSENJIN」企画

科学、文化、政策などの温泉研究に貢献した先人の功績を関連学会・団体との連携して、幅広く日本の温泉関係者の情報共有を図る事業として可能な限り段階的に研究調査をすすめる。一案として、芸能や野球スポーツ界などで広く見られる「殿堂」に習い「温泉殿堂」などの顕彰制度を関連資料：書籍の保存などと合わせ其の可能性を検証する。

8) 「地域活性化研究会」－地域活性学会

地域活性学会(全国12大学及び内閣府を発起人として地域活性化の人材育成、政策提言、国際貢献などを研究する団体)と連携して、温泉地の再生・活性化に資する政策に関する研究を行う。引き続き、健康と温泉フォーラムの月例会は地域活性学会と共催する。

9) 「日本の名湯百選」見直し、再評価事業(自主調査研究)

35年以上を経過し、変貌した既認定温泉地の再評価・調査研究を行い、健康活用を積極的に取り組む新温泉地に差し替え、温泉の健康的・社会的活用を行っている自治体・組合を積極的に支援する。

2. 研修事業

健康・福祉・介護や国際交流等、温泉の社会的活動を積極的に支援するため、講師派遣、人材育成など大学、自治体、組合、温泉地関係等からの要請に可能な限り対応する。

1) 「第32回温泉利用指導者研修会」(講師派遣)

主催 一般財団法人日本健康開発財団

会場 ビジョンセンター東京駅前

派遣日 令和6年10月11日(金) 講義テーマ 「健康社会学」(理論)

令和6年10月18日(金) 講義テーマ 「温泉保養システム」(実務)

受講者 温泉利用指導者研修生

2) 「ICOIプロジェクト「ふじのくに学」伊豆の温泉と産業おこし」(講師派遣)

主催 公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム

会場 静岡県立大学(静岡県静岡市駿河区谷田52-1)

派遣日 令和6年11月9日(土) 講義テーマ「日本と世界の温泉の歴史」

受講者 静岡県内の高等教育機関(大学、大学院、高専等) 在校生他

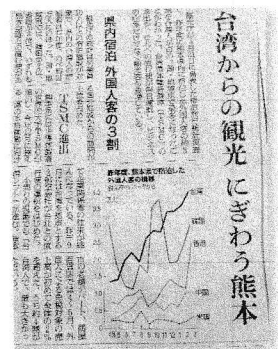
3. フォーラム事業

1) 「健康と温泉フォーラム2024・温泉を活用した健康づくり広域連携会議」

本事業は全国の温泉地自治体の広域連携や、地元温泉地と中央組織(官庁、関連学会、関連組織)及び地元市民との情報共有などを目的に全国の温泉地で開催するフォーラムの主軸である全国マルチプラットフォーム事業です。予定共催団体との調整で、本年度中の開催は見送ることとなりました。

2) 「菊池温泉湧出70周年記念事業-菊池温泉国際プレミアム・サローネ」(案)

- ・テーマ 「温泉地の国際交流と市民の健幸づくり」(仮題)
- ・主催 菊池市商工会/健康と温泉フォーラム
- ・会期 令和6年11月2日(土) 午後
- ・会場 菊池市民広場大屋根広場
- ・参加者 菊池市一般市民
- ・付帯事業 「台湾の観光と物産展」(仮称)
- ・プログラム 企画
記念講演、パネルディスカッション、交流会等



3) Well-Beauty Style 2024 (後援・展示ブース(3mx2m)設営)

- ・開催日 令和6年9月30日(月)10月日(火)2日(水)
- ・会場 東京BIGサイト西ホール
- ・来場者 1.5万人(予定)
- ・展示協力 インフォーママーケットジャパン株式会社 他
- ・フォーラムと主催者との共催で、催事期間中にセミナーの開催を計画する。
仮題 「温泉ウエルネスへの期待とその課題」 講師 調整中

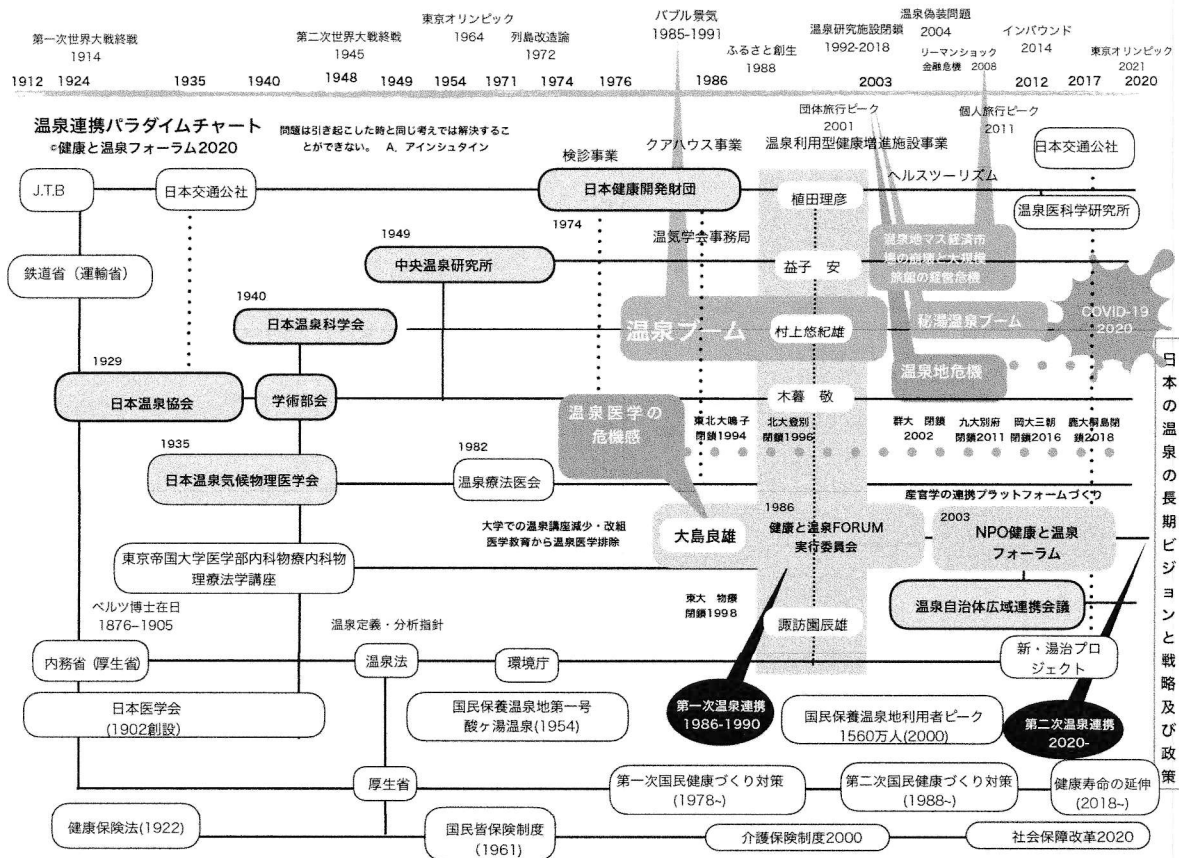
4. 情報交流事業

- ・HP及びSNSの掲載内容の充実(一般と専門コンテンツの棲み分け)
- ・NPO法人として一般市民への情報公開の取り組み(主にHPで公開予定)
- ・温泉療養相談コーナー」の継続運用

5. 国際交流事業

昨年の静岡県ICOIプロジェクトの国際会議「ふじのくに食と温泉文化フォーラム」の海外講師コーディネータで、招聘したイタリア、ドイツとの専門家の国際交流促進や、その他ハンガリーやフランスなど欧州温泉先進国との交流を中心として、「日本の温泉文化のユネスコ無形文化遺産登録」の調査研究/体制づくりなどへの支援など、フォーラムのネットワークの活性化など今後予想される国際的な連携への一歩として関係組織との情報共有や連携を図る。

温泉連携パラダイムチャート



収 支 予 算 書

令和 6年 4月 1日から令和 7年 3月31日 (決算) まで

法人名：特定非営利活動法人健康と温泉フォーラム
事業名：事業全体

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
事業活動収入				
会費収入	2,700,000	2,700,000	0	
正会員会費収入	2,700,000	2,700,000	0	
事業収入	3,210,000	2,900,000	310,000	
研修事業収入	260,000	260,000	0	
調査研究収入	850,000	500,000	350,000	
フォーラム事業収入	2,000,000	2,000,000	0	
情報交流事業	100,000	140,000	▲40,000	
事業活動収入計	5,910,000	5,600,000	310,000	
事業活動支出				
事業費支出	2,370,000	2,350,000	20,000	
研修事業	100,000	100,000	0	
調査研究事業	650,000	650,000	0	
フォーラム事業	1,500,000	1,500,000	0	
情報交流事業	120,000	100,000	20,000	
管理費支出	3,500,000	3,530,000	▲30,000	
給料手当支出	1,260,000	1,260,000	0	
会議費支出	170,000	170,000	0	
旅費交通費支出	360,000	360,000	0	
通信運搬費支出	280,000	280,000	0	
消耗什器備品費支出	230,000	230,000	0	
光熱水料費支出	190,000	190,000	0	
賃借料支出	960,000	960,000	0	
雑支出	50,000	80,000	▲30,000	
事業活動支出計	5,870,000	5,880,000	▲10,000	
事業活動収支差額	40,000	▲280,000	320,000	
II 投資活動収支の部				
投資活動収支差額	0	0	0	
III 財務活動収支の部				
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出				
当期収支差額	40,000	▲280,000	320,000	
前期繰越収支差額	22,870	▲181,730	204,600	
次期繰越収支差額	62,870	▲461,730	524,600	

第3号議案 (資料3)

令和6年度特定非営利活動法人健康と温泉フォーラム役員

名誉会長	白倉卓夫	群馬大学名誉教授
会長	三友紀男	仙台社会保険病院名誉院長
常任理事*	合田純人	専任(*企画運営委員長)
常任理事*	栗原茂夫	学校法人作新学院大学客員教授
理事	溝口薫平	大分県湯布院温泉玉の湯顧問
理事	上口昌徳	石川県山中温泉かよう亭代表取締役
理事	首藤勝次	竹田市健康と温泉文化 芸術フォーラム代表理事 前竹田市長
理事	齊藤兵治	長野県鹿教湯温泉ホテル齊藤顧問
理事	小山芳久	一般社団法人山梨県ウェルネスツーリズム推進協議会会長
理事	大野正人	観光リサーチ&プランニング代表 前横浜商科大学教授
理事	川崎義巳	株式会社フェローニア取締役
理事	笠 愛一郎	熊本県商工連合会会長 菊池市商工会会長
理事	荒木 善紀	新潟県村杉温泉長生館代表取締役社長
理事*	岡田友悟	NPO法人日本スパ&ウエルネスツーリズム協会理事長
理事	野中ともよ	NPO法人ガイア・イニシアティブ会長
理事*	加藤典嗣 (新任)	一般財団法人日本健康開発財団理事長
理事	畠山米一	株式会社玉川温泉代表取締役社長
理事	中沢 敬	一般社団法人群馬県温泉協会会長、元草津町長
理事*	布山裕一	日本温泉地域学会理事長 流通経済大学講師
理事	鶴田浩一郎 (新任)	ホテルニューツルタ代表取締役社長
監事	小林裕明	いわき商工会議所専務理事
監事*	石田 心 (新任)	公益財団法人日本交通公社旅の図書館副館長
専門委員*	坂本 誠	公益財団法人地方自治総合研究所研究員
専門委員*	関口陽一	独立行政法人経済産業研究所上席研究員
専門委員	星憲一郎	涼音堂茶舗代表
専門委員	井上晶子	立教大学観光研究所主任研究員
専門委員	石井宏子	株式会社温泉ビューティ研究所代表
専門委員	武居和江	有限会社ケイズケア代表取締役 温泉ウエルネスプランナー
専門委員*	江淵 敦	インフォママーケティングジャパン株式会社事業部長・編集長
専門委員	浜田幸康	株式会社PDSアーキテクト一級建築士事務所代表
研究員	樽井由紀	奈良女子大学講師
研究員*	野添周子	温泉と宿ジャーナリスト
研究員	芦田倍芳	株式会社エモーションズワーク代表
研究員	北出恭子	有限会社スプリングラボ代表 温泉家
研究員	池原沙都実	株式会社ジェイアーオール東日本企画
顧問	前田 勇	立教大学名誉教授

* 企画・運営委員

会員リスト（令和6年3月末）

法人会員53社(順不同)

信州鹿教湯温泉 斎藤ホテル
大國道夫都市建築総合研究所
一般社団法人山中温泉観光協会
いわき商工会議所
由布院温泉 玉の湯
一般財団法人日本健康開発財団
株式会社電通
医療法人社団正風会
大分県竹田市
秋田県仙北市
北海道豊富町
鳥取県倉吉市
石川県加賀市
宮城県大崎市
鳥取県三朝町
兵庫県新温泉町
山口県長門市
北海道ニセコ町
公益財団法人日本交通公社
NPO法人日本スパ&ウエルネスツーリズム協会
湯河原温泉旅館協同組合
株式会社P.D.Sアーキテクト一級建築士事務所
株式会社アクアエンタープライズ
菊池市商工会
菊池温泉観光旅館協同組合
菊池市観光協会

鳥取県関金温泉振興組合
大分県別府温泉旅館協同組合
株式会社トリリオン
株式会社玉川温泉
新潟県村杉温泉長生館
新潟県五頭温泉郷旅館組合
鹿教湯温泉旅館協同組合
NPO法人越後妻有里山協議機構
一般社団法人日本温泉気候物理医学会
温泉療法医会
地域哲学研究所
涼音堂茶舗
地域活性学会
フェローニア株式会社
バスリエ株式会社
三重県勤労福祉センター希望荘
NPO法人ガイア・イニシアティブ
ソレイユプロジェクト合同会社
株式会社スリムビューティハウス
一般社団法人健康百寿協会
株式会社メディカルイオン
一般社団法人三朝温泉観光協会
医療法人楽山会大湯リハビリ温泉病院
株式会社エモーションズ・ワークス
たわらやまの旅と未来会議
株式会社中沢ビレッジ
一社) 竹田市健康と温泉・文化芸術フォーラム

個人会員（60人）



| 健康=人間 | 温泉 | 新しいコミュニケーションの場 | 3つの要素を親しみやすく視覚化
Thermalism for All ©The Forum on Thermalism in Japan 2024.6.14